

令和4年度

教育委員会の事務の点検及び評価

(令和4年度分)

令和5年3月

入善町教育委員会

目 次

I	令和4年度点検及び評価実施方針	- 1 -
II	教育委員会の運営状況	- 2 -
III	教育委員会の事務事業の執行状況	- 6 -
	基本目標1 「生きる力」を育む教育と特色ある学校づくりの推進 ...	- 6 -
	1 深い学びと特色ある学校づくりの推進	- 6 -
	2 時代に適した教育環境の整備	- 12 -
	基本目標2 郷土愛あふれる人づくりの推進	- 17 -
	1 郷土を愛するところの醸成	- 17 -
	基本目標3 生涯を通じた学習活動・スポーツの推進	- 21 -
	1 生涯学習の機会創出	- 21 -
	2 生涯スポーツの推進	- 29 -
	基本目標4 ふるさと文化の振興と共生社会理解の推進	- 36 -
	1 伝統文化の保存と伝承	- 36 -
	2 芸術・文化の振興	- 38 -
	3 国際交流と共生社会理解の推進	- 40 -
IV	学識経験者意見	- 42 -
	[参考資料] 教育に関する事務の点検及び評価実施要綱	- 43 -

I 令和4年度点検及び評価実施方針

1 趣旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条に基づき、効果的な教育行政の推進に資するとともに、町民への説明責任を果たしていくため、入善町教育委員会の事務の管理及び執行の状況について点検及び評価（以下、「点検・評価」という。）を実施する。

2 点検・評価の対象

令和4年度の教育委員会の運営状況及び事務事業の執行状況

3 点検・評価の方法

(1) 自己点検・評価

入善町総合計画「扇状地に夢と笑顔があふれるまち入善～子どもたちの未来のために～」を踏まえた「令和4年度入善町教育委員会の重点施策」に基づき、令和4年度の主な教育委員会の運営状況、事務事業の執行状況について点検・評価を行う。

(2) 学識経験者の知見の活用

入善町の教育に関して下記の学識経験者から、教育委員会の自己点検・評価結果に対する意見を聴き、本書に掲載する。

[学識経験者]

氏名	公職等
田中 和樹	入善町青少年育成町民会議会長
上島 俊晴	飯野公民館館長
木村こず恵	前桃李小学校PTA会長

(3) 議会への報告及び公表

点検及び評価の結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、入善町ホームページへの掲載、情報公開総合窓口への備付け等により公表する。

Ⅱ 教育委員会の運営状況

1 教育長・教育委員、教育委員会の会議等の状況

(1) 教育長及び教育委員名簿（教育長：任期3年、教育委員4人：任期4年）

職名	氏名	就任期間・任期	備考
教育長	小川 晋	R 3. 4. 1～ R6. 3. 31	
教育長 職務代理者	小森 幸哉	R 1. 10. 9～ R5. 10. 8	R2. 10. 1～ 職務代理者
委員	加藤 裕子	H29. 10. 1～ R7. 9. 30	
委員	稲荷 直樹	R 2. 10. 1～ R6. 9. 30	
委員	大井 里恵	R 4. 10. 1～ R8. 9. 30	新任
委員	上田 優子	H26. 10. 1～ R4. 9. 30	退任

教育長及び教育委員構成（R5. 2. 28 現在）

年齢：70歳代1人、60歳代1人、50歳代1人、40歳代2人

性別：男性3人、女性2人

(2) 教育委員会議の開催状況

開催回数：6回（R5. 2. 28 現在）

審議件数：11件

報告件数：16件

会議の公開：原則公開

(3) 総合教育会議

開催回数：0回（R5. 2. 28 現在）※R5. 3. 2 開催予定

(4) その他

会議・行事	回数・月日	場 所	出席状況
町議会 (R5. 3 月定例会含まず) 臨時会	定例会 3 回 臨時会 3 回	町議場	教育長
小学校体育大会	R4. 5. 25	中央公園 陸上競技場	教育長、教育委員
中学校体育大会	R4. 5. 26	中央公園 陸上競技場	教育長、教育委員

会議・行事	回数・月日	場 所	出席状況
学校訪問研修	R4. 6. 13～ R4. 9. 27	小学校 5 校 中学校 2 校	教育長、教育委員 教育長、教育委員
奨学生選考委員会	R4. 6. 23	庁舎	教育長
米山育英奨学生 選考委員会	R4. 7. 4	庁舎	教育長
市町村教育委員会連合会 研修会	R4. 7. 13	富山市	教育長、教育委員
第 1 回ジヤンボ〜ルカップ [®] 全国 加〜リング [®] 大会	R4. 7. 30	総合体育館	教育長、教育委員
中学校体育大会	R4. 9. 3	各中学校	教育長
生涯学習推進大会・ 男女共同参画フォーラム	R4. 9. 4	コスモ ホール	教育長、教育委員
小学校運動会	R4. 9. 10	各小学校	教育長
地区体育大会	—	各地区	中止
まちづくり懇談会	R4. 10. 18～ R4. 11. 30	各地区	教育長
駅伝競走大会	R4. 11. 6	町内一円	教育長
扇状地マラソン大会	R4. 11. 20	中央公園 陸上競技場 発着	教育長、教育委員
元旦マラソン大会	R5. 1. 1	総合体育館 周辺	教育長
入善町二十歳の集い	R5. 1. 8	コスモ ホール	教育長、教育委員
小中学校長・教頭 合同研修会	R5. 1. 13	うるおい館	教育長、教育委員

2 教育委員会の組織等

令和 4 年度機構図 5 頁

3 情報公開等

(1) 広報公聴活動

- ・ 定期刊行物（教育委員会の施策全般に関するもの）
入善町教育委員会の重点施策（A4 版 15 頁、R4. 4 発行）

- 教育委員会関係ホームページ

教育委員会事務局

https://www.town.nyuzen.toyama.jp/gyosei/soshiki/kyoiku_iinkai/index.html

教育センター

<http://www.nyuzen-c.tym.ed.jp/>

町立図書館

<https://www.town.nyuzen.toyama.jp/gyosei/tosho/index.html>

町民会館

<https://www.town.nyuzen.toyama.jp/gyosei/cosmo/index.html>

総合体育館

<https://www.town.nyuzen.toyama.jp/gyosei/taiikukan/index.html>

- 教育相談電話の設置

0765-72-0009（教育センター内）

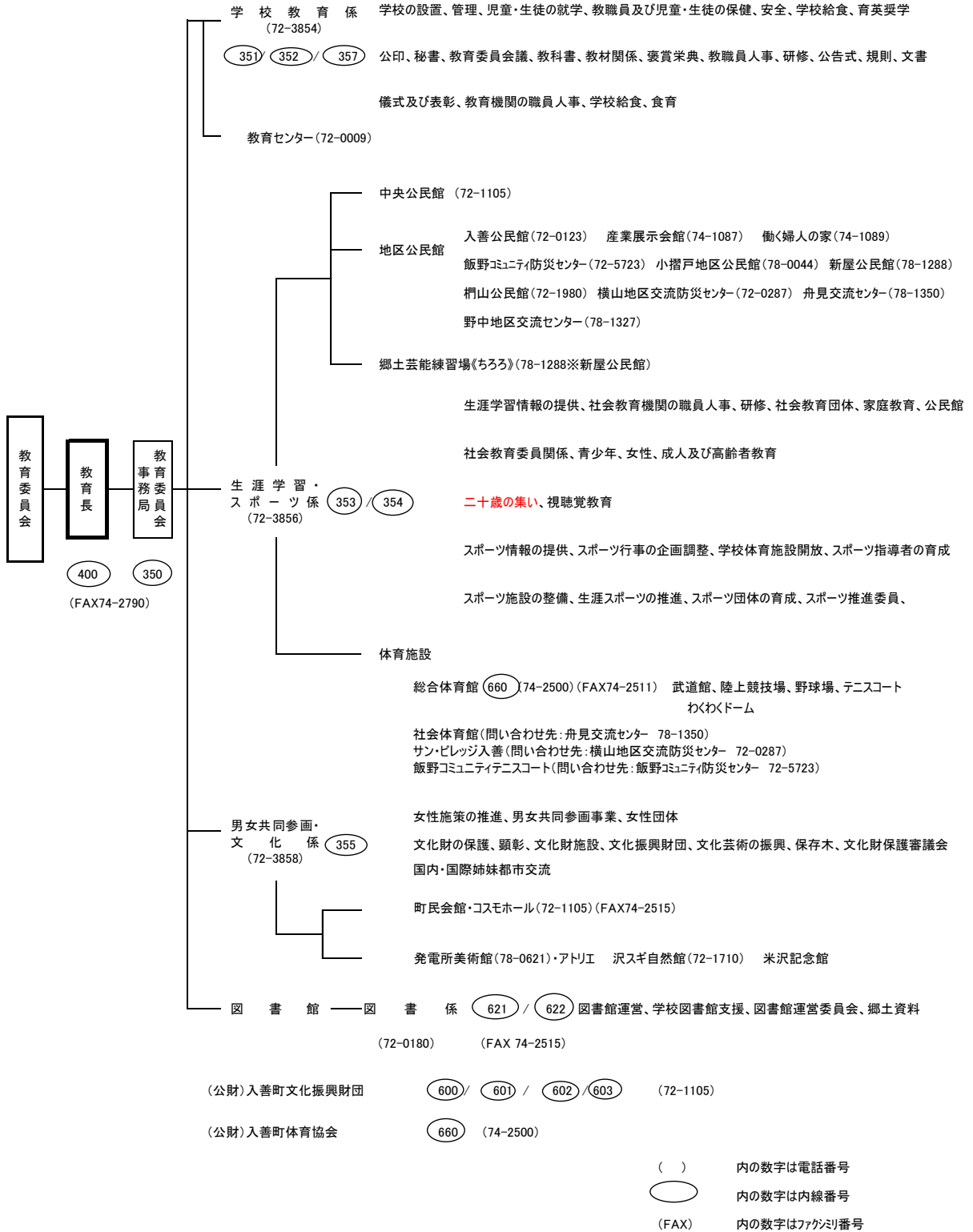
(2) 情報公開制度に基づく公文書開示請求に対する決定等の状況

請求件数　： 0 件

教育委員会機構図

電話 72-1100(代)
FAX 74-2790

(令和4年4月1日現在)



Ⅲ 教育委員会の事務事業の執行状況

基本目標 1	「生きる力」を育む教育と特色ある学校づくりの推進
--------	--------------------------

【目標】

町の未来を担う子どもたちが一人ひとりの個性を活かし活躍できるよう、深い学びと特色ある学校づくりを推進する。また、子どもたちが安心して学び、夢や希望を持ち、未来へ力強くチャレンジできるよう、時代に適した教育環境の整備を推進する。

【主な取組みと成果】

1 深い学びと特色ある学校づくりの推進

(1) きめ細やかな教育の推進

① 開かれた学校づくり・教員等の指導体制の構築

学校評議員制度の意見を参考にし、地域や社会に開かれた学校づくりを一層推進し、学校が家庭や地域と連携しながら特色ある教育活動の充実と向上に努めた。

また、教職員の意識改革を図るとともに、「開かれた学校づくり」「特色ある学校づくり」を進め、学校教育の充実に努めた。

[事業実施状況]

内 容		令和4年度	令和3年度
小中学校長・教頭・ 教務主任等研修会	補助金	390千円	390千円
学校評議員制度 【各校5人委嘱】	全小中学校	124千円	108千円
県指導主事による 学校訪問研修	全小中学校	6/13～9/27	5/13～11/18

② 確かな学力の向上、自ら学び自ら考える力の育成

子供たちの学力向上のため、全国学力・学習状況調査や総合質問紙調査(i-check)等の結果等を分析し、学級運営改善・授業改善に活用し、子供たちの確かな学力の向上・育成を図りつつ、拠点校を設け、落ち着いた学習環境の構築と教育力・指導力の向上のための実践研究を行った。

また、自ら意欲的に問題を追及できるように、観察や実験、総合学習、体験活動などあらゆる機会を子供たちに与えた。

[事業実施状況]

- ・令和のとやま型教育推進研究事業

年 度	対 象	事業費
令和4年度	教育センター、町内全小中学校	500 千円
令和3年度	教育センター、入善小、桃李小、ひばり野小、入中	307 千円

③ 特別支援教育の充実

障がいのある子供たちの適正な就学指導を実施するため、環境整備や個々の教育的ニーズに応じた適切な教育が受けられるよう、相談と支援を行う体制を含め、特別支援教育の充実を図った。

[事業実施状況]

- ・ことばの教室（言語機能の発達支援）

年 度	対 象	要支援者	事業費
令和4年度 (見込み)	さわすぎ保育所、いいの保育所、こあら保育所、柵山保育所、横山保育所	9 人	139 千円
令和3年度	さわすぎ保育所、いいの保育所、こあら保育所、柵山保育所、ひばり野保育所	8 人	128 千円

- ・スタディ・メイト派遣事業（発達障害等の子供たちの学校生活支援）

年 度	対 象	要支援者	事業費
令和4年度 (見込み)	全小中学校	229 人	10,021 千円
令和3年度	全小学校	155 人	4,277 千円

④ 幼児教育の推進

保育所、小学校との連携を図ることにより、就学前の子供たちに、遊びの場の活動を通して調和のとれた発達を支援するとともに、保護者への積極的な関わり合いを推進し、より充実した幼児教育の普及に努めた。

また、小学校教員・保育士の合同研修、授業・保育の相互参観を実施するなど、幼児教育体制の充実に努めた。

[事業実施状況]

- ・幼・保・小ふれあい事業

年 度	対 象	事業費
令和4年度	全小学校	240 千円
令和3年度	全小学校	240 千円

(2) 児童・生徒の安全・安心の確保と健康増進

① 児童生徒指導の充実

子供たちが心身ともに健やかに成長できるよう、教育センターに「子どもと親の相談員」、全小中学校に「スクールカウンセラー」、「スクールソーシャルワーカー」、中学校に「心の教室相談員」を配置し、カウンセリング体制や教育相談窓口の充実に努めるとともに、いじめ・不登校・非行等の指導について、その未然防止と早期対応のため、相談体制・連携の一層の充実に努めながら問題を抱える児童生徒への支援を行った。

また、「のぞみ」教育支援センターにおいては、専任の教育指導員による計画的・継続的な指導により、再登校への支援を行った。

さらに、安心して学校生活を過ごせるように、教育センターを核とした教育相談を充実するとともに、就学時健診を活用した子育て講座など、関係機関や各種団体との連携に努めた。

[事業実施状況]

- ・スクールカウンセラー派遣事業【県事業】

(専門的な資格【臨床心理士】を持つ者の悩み相談) (R5. 1. 31 現在)

年 度	対 象	延べ相談回数
令和4年度	全小中学校	1,200 回
令和3年度	全小中学校	1,286 回

- ・スクールソーシャルワーカー派遣事業【県事業】

(子供が抱える家庭問題を解決し、学校生活支援) (R5. 1. 31 現在)

年 度	対 象	延べ相談回数
令和4年度	全小中学校	111 回
令和3年度	全小中学校	116 回

・心の教室相談員配置

(生徒・保護者・教職員の悩み相談) (R5. 2. 28 現在)

年 度	対 象	延べ相談回数
令和4年度	全中学校	489回
令和3年度	全中学校	383回

・子どもと親の相談員配置

(子供たちやその保護者の悩み相談) (R5. 2. 28 現在)

年 度	対 象	延べ相談回数
令和4年度	教育センター	136回
令和3年度	教育センター	133回

・適応指導教室(不登校の子供たちへの再登校支援) (R5. 2. 28 現在)

年 度	対 象	延べ相談回数
令和4年度	教育センター	232回
令和3年度	教育センター	301回

・教育相談 (R5. 2. 28 現在)

年 度	対 象	延べ相談回数
令和4年度	教育センター	53回
令和3年度	教育センター	28回

・就学時健診の子育て講座

年 度	対 象	受講者数
令和4年度	全小中学校	計 275 人 (小学校 220 人 中学校 55 人)
令和3年度	全小中学校	計 337 人 (小学校 319 人 中学校 18 人)

② 学校保健・安全の充実

心身ともに健康で安全に学校生活を送るため、各種検診を実施し、特に心疾患等が疑われる児童生徒の保護者に対しては精密検査の受診を促すなど、児童生徒の健康保持に努め、併せて規則正しい生活習慣を身に付けさせる教育に努めた。

また、新型コロナウイルス感染症対策として、消毒液や非接触型温度計等の保健衛生用品などを購入するとともに、手洗いチェッカーによる手洗い

指導や衛生指導、感染症に対する差別や偏見、誹謗中傷等の防止などの感染症に関する指導を行った。

[事業実施状況]

・児童生徒健康診断

年 度	対 象	受診者数	事業費
令和4年度	小学生	910人	4,183千円 (見込み)
	中学生	566人	
令和3年度	小学生	963人	4,237千円
	中学生	562人	

・就学時健康診断

年 度	対 象	受診者数	事業費
令和4年度	小学校新1年生	135人	251千円
令和3年度	小学校新1年生	142人	271千円

・児童生徒心臓検査

年 度	対 象	受診者数	事業費
令和4年度	小学校1年生	141人	500千円
	中学校1年生	188人	
令和3年度	小学校1年生	149人	487千円
	中学校1年生	171人	

・生徒貧血検査

年 度	対 象	受診者数	事業費
令和4年度	中学生	469人	257千円
令和3年度	中学生	491人	244千円

③ 給食の充実

学校給食を生きた教材として活用し、自らの食生活や健康への関心、感謝の心と態度の育成、食に関する産業や文化への理解を深める食育を推進した。

給食には、地場産の食材等、野菜を積極的に取り入れ、給食時に今日の地場産食材を放送したり、掲示資料で紹介するなど、地域密着の食育実践と地

産地消を推進した。また、令和2年度より毎月1回実施している入善産「富富富」を使用した米飯給食については、富山県農業協同組合中央会の協力の下、毎日の給食に入善産「富富富」の提供を継続実施した。

給食での減塩の取組みとして、汁物の塩分濃度を測定し、その結果を給食時に放送することで児童生徒への減塩意識の向上につなげた。

また、児童生徒にかかる学校給食費は、前年度に引き続き1人あたり月額1,000円を補助していたが、令和4年9月からは様々な影響から急激な物価高騰が生じたことから、給食費の見直しと合わせ、1人あたり月額2,000円を補助することで、保護者の経済的負担の軽減を図った。

[事業実施状況]

- ・入善産「富富富」給食 : 全小中学校
- ・ふれあい地場産会食 : 小学校1校
- ・給食における減塩の取組み : 全小中学校



地場産食材の紹介掲示



地場産食材を使用した給食（入膳の日）



ふれあい地場産会食

・学校給食補助

年 度	対 象	延べ人数	事業費
令和4年度	小学生	9,162人	24,239千円
	中学生	5,644人	
令和3年度	小学生	9,618人	15,339千円
	中学生	5,721人	

(3) 特色ある学校づくりの推進

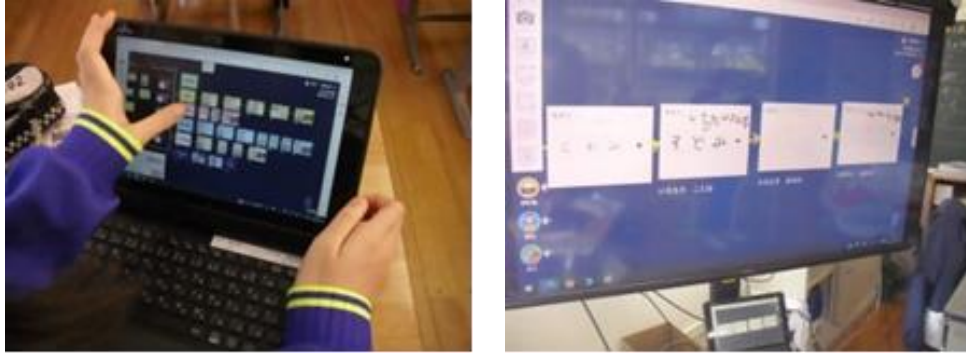
新学習指導要領における小学校の外国語に係る授業時間数増加の対応として、小中学校へのALT（語学指導助手）を引き続き3名配置し、発達段階にふさわしい国際理解教育を一層充実させるとともに、外国人と直接ふれ合い、本場の英語に親しみながら、国際的なコミュニケーション能力を身に付けられるような取組みを行った。

2 時代に適した教育環境の整備

(1) 教育環境の整備促進

これまで小学校ランチルームの空調機器が未整備であった上青小学校、黒東小学校、桃李小学校及びひばり野小学校の空調整備を行い、適切な環境での学校給食活動を実施した。そのほか、上青小学校駐車場他整備工事や入善西中学校トイレブース改修・階段手摺設置工事の実施など、学校施設のきめ細かな修繕工事を行った。さらに、学校のICT教育の環境整備としてICT支援員の拡充と授業支援ソフトの導入を行い、ICT教育への活用を最大限行える環境を整えた。

また、教育機会の確保と地域を担う人材育成を図るため、引き続き中学生、高校生及び大学生への奨学金制度により支援を行うとともに、大学生については、Uターン促進奨学金制度（奨学金返済額を2分の1減免）により、大学卒業後に活躍する若者を支援した。また、経済的な理由により就学が困難な場合や特別支援学級の子供たちに対し、学用品費・給食費などの一部を援助することでより安心して勉学に取り組める環境づくりに努めた。



授業支援ソフトの使用画面（黒東小学校）

[事業実施状況]

・教育環境の整備

内 容	事業費
小中学校施設修繕・工事	11,645 千円
小学校ランチルーム空調設備設置工事	42,449 千円
上青小学校駐車場他整備工事	7,370 千円
入善西中学校トイレブース改修・階段手摺設置工事	2,486 千円
ICT 支援員業務委託料（拡充分：8,349 千円）	12,349 千円
授業支援ソフト利用料	4,023 千円

・冬季間スクールバス運行

年 度	対 象	人数	事業費
令和 4 年度	黒東小	34 人	10,952 千円
	入西中	177 人	
令和 3 年度	黒東小	36 人	11,478 千円
	入西中	171 人	

・入善中学校遠距離スクールバス運行

年 度	対 象	人数	事業費
令和 4 年度	入中	27 人	7,492 千円
令和 3 年度	入中	28 人	7,494 千円

・育英奨学金制度

年 度	対 象	人 数	事業費
令和4年度	中学生	15人	8,190千円
	高校生	12人	
	大学生	11人	
令和3年度	中学生	15人	7,530千円
	高校生	11人	
	大学生	10人	

・Uターン促進奨学金

年 度	対 象	人 数	事業費
令和4年度	大学生	11人	1,060千円
令和3年度	大学生	8人	820千円

・特別支援教育就学奨励

年 度	対 象	人 数	事業費
令和4年度	小学生	19人	1,427千円
	中学生	14人	
令和3年度	小学生	26人	1,158千円
	中学生	11人	

・準要保護児童生徒援助

年 度	対 象	人 数	事業費
令和4年度	小学生	65人	8,929千円
	中学生	39人	
令和3年度	小学生	69人	7,770千円
	中学生	35人	

・入学準備金入学前支給

年 度	対 象	人 数	事業費
令和4年度	新小学生	12人	1,044千円
	新中学生	6人	
令和3年度	新小学生	8人	1,369千円
	新中学生	16人	

【今後の方針】

- 1 特別支援教育については、普通級における授業の円滑な進行の補助と、特別な支援を必要とする児童への支援のために学校設備の充実を図る。また、全小学校に加え、今年度新たに中学校にも拡充配置した「特別支援スタディ・メイト」のさらなる活用を図ることで、個々の問題に応じた就学支援体制を整備する。
- 2 いじめ・不登校・非行等の問題行動は、関係諸団体との連携が功を奏し平穏な状況ではあるが、今後も引き続き小・中学校に相談員を配置し、子供たちが気軽に相談できる窓口を充実させ、早期発見・早期対応をもとに「いじめゼロ 不登校ゼロのまち 入善」を目指し、日常行動に注意を払い学校・家庭・地域が一体となって指導にあたっていく。また、「のぞみ」教育支援センターにおいては、専任の教育指導員による計画的・継続的な指導により、再登校への支援を行っていく。
- 3 幼児教育の推進については、今後も保育所と小学校との連携を密にし、保護者への積極的な関わり合いと幼児教育体制の充実に努めていく。
- 4 国際理解教育の推進については、子供たち各々の発達段階にふさわしい国際理解教育を一層充実することが大切であり、新学習指導要領に対応するため、引き続き3名の語学指導助手を小・中学校に配置し国際的な広い視野で活躍できる人材の育成に努めていく。
- 5 教育環境及び学校の施設設備の充実については、子供たちが安全に、安心して学校生活を送ることができるよう点検作業を徹底し、施設設備の適正な維持管理に努めるとともに、遠距離や冬季間の通学環境の整備も引き続き行っていく。また、今般の新型コロナウイルス感染症対応の経験を踏まえ、必要な教育活動が継続できるよう感染症対策を講じることにより、快適で

充実した安全な教育環境の整備に計画的に取り組んでいく。

- 6 学校教育の ICT（情報通信技術）環境の整備については、整備済みの一人一台タブレット端末をより効果的に活用できるよう、拡充した ICT 支援員の派遣を継続して行うとともに、ハードウェア、ネットワークにかかる保守体制を強化し、ICT 教育環境の整備を計画的に進めていく。GIGA スクール構想の実現に向けて、時代に合った ICT 教育環境を整備することで、新学習指導要領に掲げる「主体的・対話的で深い学び」の実現を図る。
- 7 奨学金制度の活用については、今後とも奨学金の趣旨を生かし、地域を担う人材の育成に努め、大学卒業後に町に在住し活躍する若者には Uターン奨学金制度による奨学金返済額の減免により、今後の活躍を支援する。また、経済的な理由で就学が困難な児童生徒に対する給食費や学用品費の援助について今後とも適正に行っていくとともに、引き続き学校給食補助により保護者の経済的負担の軽減を図っていく。

基本目標 2	郷土愛あふれる人づくりの推進
--------	----------------

【目標】

年代を問わず多くの町民が郷土を愛するところを育み、ふるさとに愛着と誇りを持つことができるよう、ふるさと教育やキャリア教育を推進する。

【主な取組みと成果】

1 郷土を愛するところの醸成

(1) ふるさと教育の推進

① 郷土愛の醸成

町の自然や職場での体験学習、地域の人々との交流、郷土の特産品などを学習することを通し、積極的に社会に貢献し、地域の一員としてふるさとへの誇りと愛着を持つ心の育成に努め、共に生きる・働く喜びを味わえる体験的な活動を行った。また、幅広い年齢層を対象として、生まれ育った町の恵みや魅力を確実に伝える「ふるさと教育」を実践し、郷土に親しみと愛着をもった人材の育成を図った。

[事業実施状況]

・とやま環境チャレンジ10事業

年 度	対 象
令和4年度	小学校4年生（飯野小、桃李小）
令和3年度	小学校4年生（上青小、ひばり野小）

・ふるさと教育推進事業

年 度	対 象	事業費
令和4年度	小学校5、6年生	161千円
令和3年度	小学校5、6年生	201千円

・郷土愛醸成事業

第1弾『入善町の水の恵みを感じよう』

実施日：令和4年9月17日（土）

参加者：15名（一般14名・児童1名）平均年齢 59歳

第2弾『入善町の秋を満喫しよう』

実施日：令和4年10月22日（土）

参加者：19名（一般11名・児童8名）平均年齢 36歳



第1弾 舟川ダム見学



第2弾 収穫体験 in たらだファーム

- ・入善町二十歳の集い（旧：入善町成人式）

実施日：令和5年1月8日（日）

参加者：174名（男性78名、女性96名）出席率79.1%

対象者：220名

② 食育の推進

食育の基本は家庭にあるという考えのもと、家族揃って食卓を囲むことや、「減塩いいね！」プロジェクトの一環として、減塩の工夫や減塩レシピの紹介を給食だよりに掲載するなど、家庭で「食」について考えるきっかけづくりを行い、一年を通して継続的な食育活動を展開した。

「第3次入善町食育推進計画」を指針とし、町民の食に対する意識の高揚を図るとともに、保健センターと連携を図りながら食を通じた健康づくり事業を実施した。

生活習慣病予防のための普及啓発を保健センター、各地区公民館で実施した。また、メタボリックシンドローム予防のため、特定保健指導の実施率向上に努めた。「減塩いいね！プロジェクト」では産学官民連携し、高血圧等の予防や改善のための減塩・適塩運動の推進に努めた。小中学生に減塩への理解を深めるため学校と連携しながら普及啓発を実施し、小学5、6年生に「減塩いいね！作文」の募集をしたところ75作品の応募があり、最優秀作品等を表彰した。受賞作文はホームページで公開や給食だよりで紹介するなど家庭での取り組みを紹介することで更なる普及啓発に努めた。

[事業実施状況]

内 容	実施回数	参加者数
1年生親子給食会講話	3回	96人
食育教室（料理教室・3月開催予定）	1回	27人

(2) キャリア教育の推進

将来の夢や目標を持ち、進路を自ら選択・決定する力、チャレンジする精神、生涯にわたり学び続ける意欲を育み、あわせて、思いやりの心を持ち、共に支え合って生きる子供たちを育成するための取組みを進めた。

[事業実施状況]

- ・社会に学ぶ14歳の挑戦事業

年 度	対 象	人 数	事業費
令和4年度	中学校2年生	168人	282千円
令和3年度	中学校2年生	196人	272千円

- ・「未来の子ども育成プロジェクト」小学校合同講演会
 講師：渡部 陽一氏（戦場カメラマン／フォトジャーナリスト）
 演題：「世界からのメッセージ～希望ある明日のために～」
 会場：コスモホール
 事業費：1,091千円
- ・青少年育成中学生合同講演会
 講師：松本 紀生氏（写真家）
 演題：「オーロラの大地から」
 会場：コスモホール
 事業費：401千円

【今後の方針】

- 1 特色ある学校づくりと創意ある教育課程の展開については、家庭・学校・地域社会がより一層連携を密にし、各学校の特徴や地域の伝統文化を活かすことはもとより、必要な学習環境の充実を図ることにより、「学力向上」をより一層進め、自ら学び自ら考える力を育成するためにも、あらゆる学習環境を与え、総合的に学校教育の充実に努めていく。

また、「入善町夢みる青少年育成基金」を活用し、夢の実現のために、学

校生活を送る中でどのように目標を持ち、夢に向かって進んでいけばよいのかを考える体験の場として、青少年育成中学校合同講演会を開催する。

加えて、令和4年度から児童育成事業資金寄附金を活用した「未来の子ども育成プロジェクト」を実施し、子どもたちの夢づくりの一助とするため、幅広い分野から第一線で活躍される講師を招致し、小学校合同講演会を開催する。

- 2 郷土愛醸成事業については、参加者が町内の隠れた魅力や新たな発見に触れ、町の良さを再認識するとともに周囲（特に若い世代）へ広めてもらう発信源となり、「町に住み続けたい」や「将来は戻ってきたい」という機会の提供に努める。

また、二十歳の集いは、進学や社会人の立場となり、町内外での活動から見聞を広められた20歳の方々が一堂に会し、旧交を温める中で改めて「ふるさと入善」を見直し、それぞれの将来や町の将来について語り合ってもらうために開催する。

- 3 キャリア教育及び環境教育の充実については、道徳・総合的な活動の時間を活用し、自然環境や福祉活動についての理解を深めていき、実際に「社会に学ぶ14歳の挑戦事業」等の活動により、地域の一員としての自覚をもって体験活動を行っていく。

基本目標 3

生涯を通じた学習活動・スポーツの推進

【目標】

すべての町民が年齢や性別、障がいの有無に関わらず、それぞれのライフステージにおいて、ニーズに合った学習活動やスポーツに親しむことができるよう、生涯学習・スポーツを推進する。

【主な取組みと成果】

1 生涯学習の機会創出

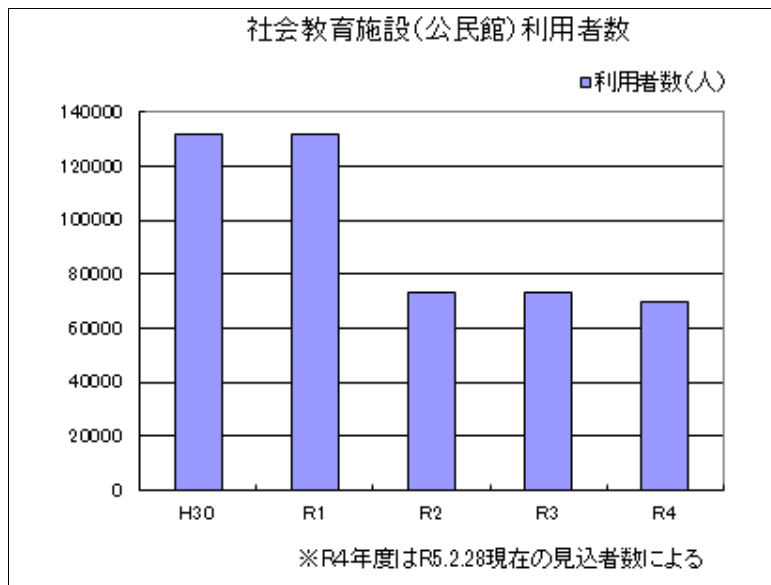
(1) 学習機会の充実

① 学習機会の創出

多様なニーズに対応するとともに、世代に関係なく広く学び合うことができる機会の充実を図った。

[事業実施状況]

・町内公民館等利用者数：69,872名（R5.2.28現在）



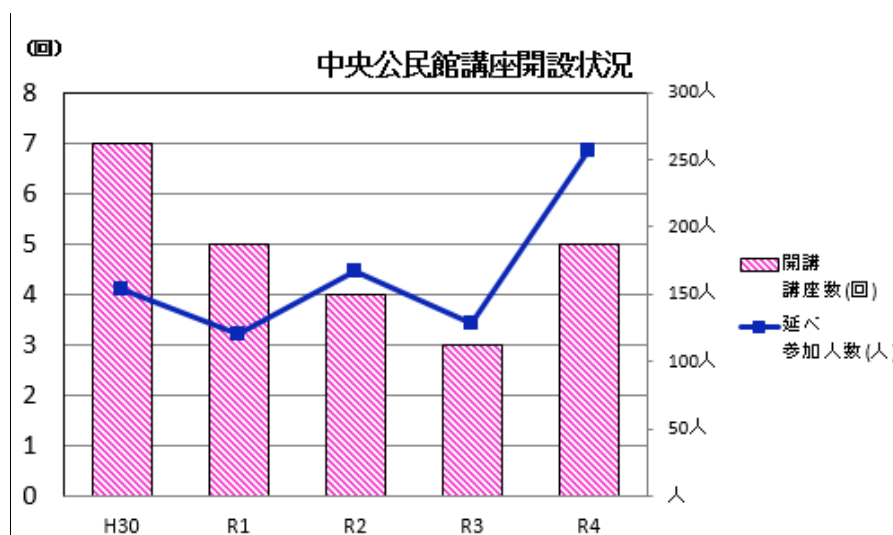
② 地域特性を活かした学びの推進

地域の歴史や文化、豊かな自然環境など、地域の特性を活かした学習や体験型講座等の展開を促進した。

[事業実施状況]

・中央公民館講座の開設

	講座名	回数	受講者数
1	ふるさと自然・歴史講座	5回	延べ82人
2	はじめてのマジック（手品）教室	3回	延べ44人
3	夏休みプログラミング教室	2回	延べ46人
4	夏休み縄文土器を作ろう！	2回	延べ17人
5	古文書って面白い！	5回	延べ68人
—	はじめての魚さばき教室	1回	中止
合計			延べ257人



③ 「学び」を支える土壌づくり

家庭は社会の基本単位であり、同時に生涯にわたって生きる心のよりどころである。家族関係や家庭の気風、年齢にふさわしい体験をさせることは、子供の人間形成に大きな影響を与える。そのため親と子のふれあいを深め、互いの人格を尊重し、心の通い合う家庭づくりを行うために教育相談や各種関係機関と連携を取りながら活動を実施した。

また、生涯学習活動に貢献のあった個人や団体を顕彰することにより、諸活動の活性化を図った。

[事業実施状況]

・教育相談（再掲）

年 度	対 象	延べ相談回数
令和4年度	教育センター	53回
令和3年度	教育センター	28回

・就学時健診の子育て講座（再掲）

年 度	対 象	受講者数
令和4年度	全小中学校	計 275 人（小学校 220 人 中学校 55 人）
令和3年度	全小中学校	計 337 人（小学校 319 人 中学校 18 人）

・入善町青少年育成町民会議の主催事業

事業名	実施日	参加者数
夏の小中学生ボランティア活動	R4. 7～8月	延べ 33 人
児童の企業・工場見学訪問 「よのなか学び隊！」	R4. 8. 19	22 人
チャレンジ・ザ・ギネス大会	R4. 10. 29	15 人

・入善町、教育委員会事務局、入善町青少年育成町民会議の主催事業

事業名	実施日	延べ参加者数
さわやかあいさつ運動 夏の部	R4. 6. 14～ 6. 17	2, 142 人
さわやかあいさつ運動 秋の部	R4. 10. 18～10. 21	1, 798 人
	合計	3, 940 人

・入善町少年補導センター運営委員会の主催事業

事業名	補導員数	延べ参加者数	補導日数
補導センターの開設	27 人	56 人	13 日

・生涯学習推進大会・男女共同参画フォーラム

開催日：令和4年9月4日（日）

参加者数：198 人

内容：3 個人の生涯学習推進功労表彰、家田荘子氏による講演

- ・町内団体等への支援

支援団体：黒部川扇状地研究所、入善町青少年育成町民会議、入善町PTA連絡協議会、入善女性団体連絡会、入善町連合婦人会、婦人ボランティア連絡協議会、上原地区婦人会

(2) 生涯学習環境の整備

① 施設の適正な維持管理の推進

老朽化が進む公民館等の計画的な整備・改修を行い、地域の実情などを踏まえながら施設の適正な維持管理に努めた。

[事業実施状況]

- ・地区公民館の修繕等 ※町が管理運営する公民館

公民館名	内容	工事・修繕費用
青木公民館	軽運動室暖房機取替修繕	539,000 円
新屋公民館	L P ガスバルク取替修繕	866,800 円
櫛山公民館	L P ガスバルク取替修繕	1,259,500 円
舟見公民館	駐車場区画線修繕	220,000 円

- ・自治公民館の修繕等 ※町内会等が管理運営する公民館

公民館名	内容	町補助金交付額 (※1)
田中公民館	玄関風除室修繕	310,000 円
上田公民館	内装工事 外 修繕	308,000 円
藤原公民館	納屋新築工事	104,000 円
新屋上村公民館	駐車場アスファルト舗装	50,000 円

※1…町から新築・改築や修繕、附属設備の設置、駐車場の整備等に要する費用に対して補助金を交付

② 公民館活動の活性化

地区公民館を拠点としたイベント教室や講座などの活性化を推進した。

[事業実施状況]

- ・地区公民館の主な単独開催イベント教室等

公民館名	主なイベント教室や講座
中央公民館	中央公民館講座、中央公民館まつり

公民館名	主なイベント教室や講座
入善公民館	古文書教室、ウクライナ難民支援 BOOKS フリーマーケット
上原公民館	星空観察会、パソコン教室
青木公民館	写真展、リフォーム作品展示会
飯野公民館	文鎮づくり教室、太極拳教室
小摺戸地区 公民館	スマホ教室、スキー・スノーボード教室
新屋公民館	エコバック作り教室、手作り味噌教室
柵山公民館	獅子舞・子天狗踊り、かぶら寿司作り教室
横山公民館	あかりアート教室、絵馬描き教室
舟見公民館	七夕短冊飾り付け、朝ちょこっと市
野中公民館	落花生収穫体験、そば打ち教室

・ 地区公民館の連携開催イベント教室等

公民館名	主なイベント教室や講座
飯野公民館 入善公民館 ※2	親子バードウォッチング
上原公民館 青木公民館 ※2	三世代交流（そば打ち教室、しめ縄作り教室） など
横山公民館 柵山公民館 ※2	魚つかみ取り大会
全地区 公民館	第26回入善町少年少女紙飛行機大会

※2…富山県はつらつ公民館学び支援事業



11/13 親子バードウォッチング
(飯野・入善公民館)



11/12 三世代交流（そば打ち教室）
(上原・青木公民館)



8/27 魚つかみ取り大会
(横山・柵山公民館)

(3) 図書館機能の整備・充実

① 図書館資料の充実・活用

学習・情報の拠点施設として多様化・高度化する利用者ニーズに的確に対応できるよう、幅広い分野の図書や視聴覚資料、電子書籍の充実を図った。

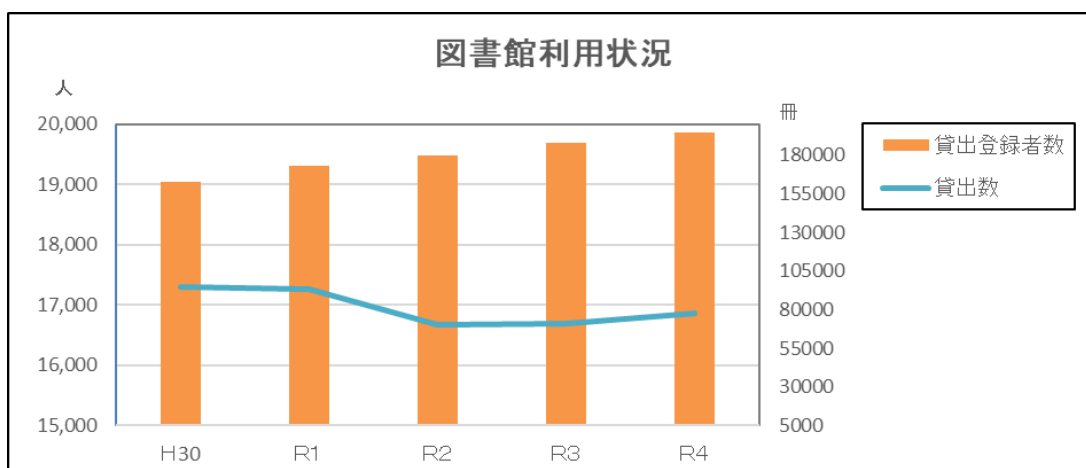
[事業実施状況]

・蔵書数

項目 \ 年度	令和3年度	令和4年度 (見込み)
図書資料総数	123,257冊	124,710冊
うち児童書数	43,264冊	43,775冊
うち電子書籍	1,392冊	1,652冊
視聴覚資料	2,436点	2,486点
うち CD	1,387点	1,437点
うち DVD,ビデオテープ	564点	564点
うち 録音テープ	485点	485点
逐次刊行物 (新聞)	7種	6種
逐次刊行物 (雑誌)	102種	93種

・利用実績

項目 \ 年度	令和3年度	令和4年度 (見込み)
登録者数	19,691人	19,865人
うち児童数	1,610人	1,518人
貸出総数	70,986冊	77,461冊
うち児童書	28,098冊	30,941冊
うち視聴覚資料	701点	919点
うち電子書籍	2,874冊	3,158冊
予約図書	2,688冊	3,158冊
コピーサービス	737枚	1,073枚
調査相談	1,640件	959件
町民一人当たり貸出冊数	3.0冊	3.3冊



② 生涯を通じた読書活動の推進

館内外で各種事業を実施したほか、町内の小中学校へ図書館司書を派遣し、学校図書館の整備及び読書教育支援を実施し、年代に応じた読書普及活動を推進した。

[事業実施状況]

対象	事業名	令和3年度	令和4年度 (見込み)
乳幼児	おはなしの部屋 (土曜日開催)	169人	189人
	訪問読み聞かせ (保育所・児童センター)	248人	666人
	保育所図書館訪問	104人	178人
	クリスマスお楽しみ会	37人	30人
	保育所感想画展	町内7保育所	
小中学生	夏休み事業 (読書マラソン・ 読書感想文講座)	127人	110人
	小学校図書館見学	74人	111人
	学校図書館支援	小学校6校 中学校2校 月2回～3回	
一般 全体	リサイクル雑誌市	66人	60人
	読書会	14人	24人
	出前講座	9人	10人
	貸し出し本の福袋展	80人	89人



クリスマスお楽しみ会



貸し出し本の福袋展

・本の月次展示

展示名	期 間
緑のある暮らしをはじめませんか？	4/ 1 ～ 4/27
えほんのなかに春みつけ！	4/ 1 ～ 4/27
～心を整える～メンタルヘルス特集	5/ 1 ～ 5/29
えほんを開いておでかけしよう	5/ 1 ～ 5/29
時間を読む～6月10日は時の記念日～	6/ 1 ～ 6/29
雨の日だって絵本で楽しく！	6/ 1 ～ 6/29
夏満喫!! レジャー・おでかけ本特集	7/ 1 ～ 8/30
あつ～い夏によみたいえほん	7/ 1 ～ 8/30
夏休みの宿題に役立つ本	7/ 1 ～ 8/30
涼を感じる本	8/ 2 ～ 8/30
認知症を理解するために～9月21日は世界アルツハイマーデー～	9/ 1 ～ 8/29
自分と大切な人を守るための「防災対策」	9/ 1 ～ 8/29
かぞくっていいな！	9/ 1 ～ 8/29
自由研究・読書感想文の本	8/ 1 ～ 8/29
知っとこ！相続	10/ 1 ～ 10/27
始めよう！金融教育	10/ 1 ～ 10/27
図書館 de ハッピー～ハロウィン！	10/ 1 ～ 10/27
没後70周年記念特別企画「柏原兵三」	11/ 1 ～ 11/29
「芸術の秋」を楽しもう！	11/ 1 ～ 11/29
おなかいっぱいおいしいえほん	11/ 1 ～ 11/29

展示名	期 間
「ととのう」すまいであらたな年を	12/ 1 ～ 12/27
絵本のなかのクリスマス	12/ 1 ～ 12/27
「免疫力アップ！」体温め情報	1/ 4 ～ 1/29
十二支とお正月の絵本	1/ 4 ～ 1/29
I♡(アイラブ) モフモフ 癒しのペット特集	2/ 1 ～ 2/26
あまーい♡おいしい♡おかし絵本	2/ 1 ～ 2/26
中学生手づくり絵本	2/ 11 ～ 2/26
新たな一步を踏み出すあなたへ	3/ 1 ～ 3/30
ウキウキ！春がやってきた！	3/ 1 ～ 4/27

③ 全ての町民への読書環境の整備

電子図書館サービス、移動文庫等の活用により、誰もが等しく図書館サービスを受給できる環境整備に努めた。

[事業実施状況]

項目	年度	令和3年度	令和4年度 (見込み)
	電子図書館	蔵書数	1,392冊
	貸出数	2,874冊	3,158冊
移動文庫・団体貸出	貸出数	5,695冊	4,988冊

2 生涯スポーツの推進

(1) スポーツ環境の整備・充実

① スポーツ環境の充実

社会体育施設については、町民ニーズに対応した快適で適正な管理運営に努めた。

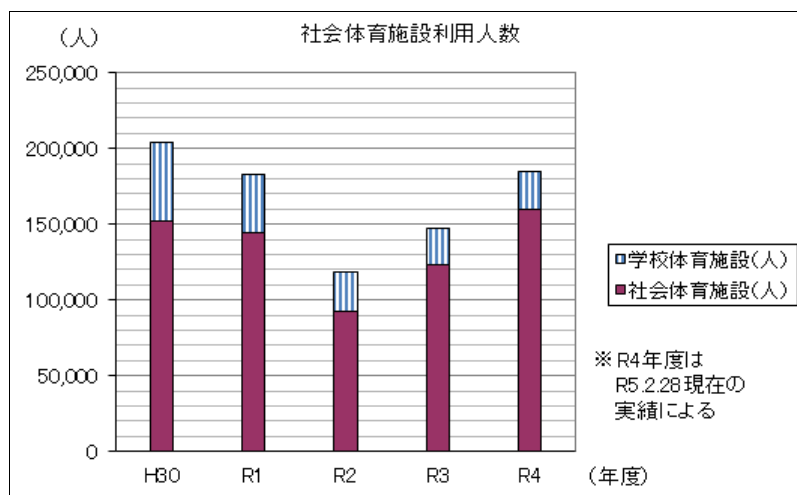
また、学校体育施設の開放などにより、地域においてもスポーツやレクリエーションなどを身近に楽しむことができる環境を確保した。

[事業実施状況]

・町内体育施設の利用者数：185,052人（R5.2.28現在）

うち社会体育施設：159,449人

学校体育施設：25,603人



・わくわくドーム多目的室の利用状況

(令和5年2月28日現在)

(単位：回)

競技種目	一般	部活	スポ少	その他	合計	備考
野球	7	3	17		27	
サッカー(フットサル)	77	26	10		113	
テニス	29	2	8		39	
陸上			31		31	
ゲートボール	11				11	
ベタンク	1				1	
ダンス	2				2	
その他(保育所)				4	4	遠足など
(町主催・共催事業)				6	6	※
合計	127	31	66	10	234	

※その他(町主催・共催事業)の内訳

7/16親子フェスタ、11/5駅伝ランニング教室、11/20扇マラファミリーの部
12/28石川歩野球教室、1/28カターレサッカー教室、2/10ティール教室

② 施設の適正な維持管理の推進

老朽化が進む社会体育施設の計画的な整備・改修を行い、施設の適正な維持管理に努めた。

[事業実施状況]

- ・社会体育施設の維持管理

内 容	事業費
総合体育館サブアリーナ バスケットゴール昇降装置電動化工事	1,100 千円

(2) スポーツ活動の推進

① 特色あるスポーツ大会の開催

スポーツに対する意識の高揚を図るため、特色あるスポーツ大会を開催・運営した。

[事業実施状況]

- ・第1回ジャンボ〜ルカップ全国カローリング大会

開催日：令和4年7月30日（土）

参加者：94 チーム（304 人）

うち県外 4 チーム（愛知県・石川県より各2チーム）

県内 56 チーム

町内 34 チーム

- ・第50回入善町駅伝競走大会

開催日：令和4年11月6日（日）

場 所：入善町内全域

参加チーム：全37チーム

うち小学生 20 チーム

中学生 8 チーム

一般 9 チーム（オープン参加を含む）

※第50回の記念大会であり、新潟医療福祉大学陸上競技部をゲストランナーとして招聘した。また、これまでの50回大会の記録写真などを総合体育館で展示した。

- ・第29回扇状地マラソン IN にゅうぜん

開催日：令和4年11月20日（日）

場 所：日本陸上競技連盟公認 扇状地ハーフマラソンコース 外

参加登録者：1,285 人（完走者：1,092 人）

- ・第 47 回入善町元旦マラソン大会
開催日：令和 5 年 1 月 1 日（祝・日）
場 所：入善町総合体育館の周辺
参加者：226 人

② スポーツ活動の振興

幅広い世代が親しみ、交流できるスポーツの振興を図るとともに、大会等の開催や活動支援を行った。

[事業実施状況]

- ・体力運動能力測定会
開催日：令和 4 年 10 月 23 日（日）
場 所：入善町総合体育館
参加者：23 人
- ・カタールレ富山 市町村サンクスデー入善町の日
開催日：令和 4 年 6 月 25 日（土）
場 所：富山県総合運動公園陸上競技場
- ・町内団体等への支援
各地区体育協会 全 10 地区
種目別協会 全 21 協会
スポーツ少年団 本部および 18 単位団
町スポーツ推進委員協議会
- ・大会への支援
町民体育大会（陸上の部および球技の部）
町共催大会（11 種目）
- ・全国大会等出場激励金の交付（R5. 2. 28 現在）

		世界大会	全国大会	北信越大会	激励金
町	スポーツ	個人 1 人	個人 30 人 団体 1 団体	個人 13 人 団体 3 団体	630,000 円
	芸術文化	—	個人 1 人	—	10,000 円
米山文化 スポーツ基金		—	個人 17 人 団体 1 団体	個人 6 人 団体 3 団体	430,000 円

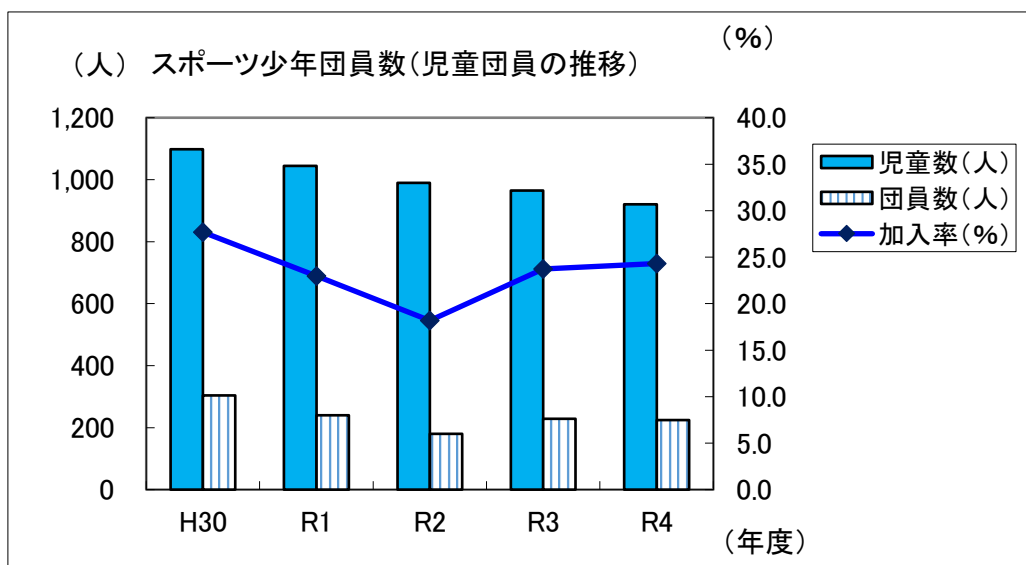
・中体連競技力向上補助金の交付：0円 ※事業申請なし

③ スポーツ団体の活性化

スポーツ少年団や地域のクラブ活動など、地域のスポーツ活動を支える団体の活性化に努めた。また、スポーツを安全に、楽しく指導する指導者を育成し、生涯にわたって運動やスポーツに親しむ児童・生徒を育成した。

[事業実施状況]

・スポーツ少年団の団員数



・スポーツ少年団競技力向上事業

教室名等	開催日	場 所	参加者数	備 考
卓球教室	R4. 9. 18	総合体育館	15人	講師： つばめジュニア卓球クラブ 田巻 賢太郎氏
野球教室	R4. 12. 28	わくわくドーム	26人	講師： 千葉ロッテマリーンズ 石川 歩氏
ミニバスケットボール 教室	R5. 2. 12	総合体育館	80人	講師： (株)ERUTLUC
炎の体育館 チャレンジ	R5. 3. 4 (予定)	総合体育館	—	対象： 町内年長・小学児童

・指導者等の育成

(ア) コーディネーショントレーニング講習会

開催日：令和5年2月4日（日）

場 所：サン・ビレッジ入善

講 演：「ジュニア期に必要な多様な動き」～バドミントンの動きを高めるコーディネーショントレーニング～

講 師：山地 延佳氏（NPO 法人日本トレーニング指導者協会員）

参加者：85人



・町内スポーツ団体による活動

(ア) 入善町スポーツ推進委員協議会による活動

・夏休み親子ニュースポーツ教室 中止

・体力運動能力測定会（再掲）

・カローリング審判講習会

開催日：令和5年3月19日（日）（予定）

場 所：入善町総合体育館

(イ) スポーツクラブ入善による活動

・主催する各種教室（ヨガ、ズンバ、ピラティス、太極拳など）

・町から受託して開催する教室（しゃんしゃん教室、頭元気アップ体操、ゆるゆるボール体操）

【今後の方針】

- 1 生涯にわたって学び続ける場の一つとして公民館の役割を果たすべく、中央・地区公民館の互いの利点や強みを活かした生涯学習の推進を図る。
また、多様化する生活スタイルやライフステージに合わせたニーズの把握に努めるとともに、魅力ある講座の企画に努める。
- 2 子ども達の健全育成が図られるように教育相談の充実を図るとともに、学校・家庭・地域が一体となって「家庭・親の教育」を展開していく。
また、社会性を育むために年代に応じた社会体験・ボランティア活動などを一層推進する。
- 3 地区の中核施設である公民館や社会体育施設は、公共施設等総合管理計画に基づき、今後も引き続き定期的に点検調査を実施し、施設の適正な管理に努めるとともに計画的に長寿命化あるいは更新していく。
- 4 幼少期から運動が好きになるきっかけ作りとなるように町内スポーツ団体や県内プロスポーツ組織と連携し、子ども達の体力向上につなげていく。
また、正しい知識と技術を有する指導者等を育成するために各種教室を開催し、競技力の向上に努める。
- 5 年代を問わず取組める生涯スポーツを推奨し、町民の生きがい対策の充実や世代間交流、健康寿命の延伸につなげる。
- 6 情報・学習の拠点施設として県内外図書館と連携しながら、利用者ニーズに応じた資料を、収集、保存、提供していく。また、利用者や地域課題解決に迅速に対応すべく、レファレンスサービスの向上を図る。
子どもの読書習慣の定着のため、乳幼児から発達段階に合わせた「読み」「聞かせる」事業を実施していく。また、学校、地域団体、読書ボランティア等との連携しながら企画展、読書会、おはなし会など各種事業を展開し、生涯を通じた読書活動の普及を推進していく。
来館が困難な町民のため、電子図書館サービス・移動文庫の活用・充実を図るほか、大活字本・点字図書などを拡充し、全ての人にやさしい読書環境の整備に努める。

基本目標 4	ふるさと文化の振興と共生社会理解の推進
--------	---------------------

【目標】

伝統文化の伝承を図るとともに、文化財の保存・活用を推進し、地域の文化資源を次代に引き継ぐ。また、文化振興施設の活用促進や芸術・文化活動の振興を図ることで、町民が芸術・文化にふれる機会の創出を図る。さらに、国際交流などを通し異文化に対する理解を深めるとともに、男女共同参画に関する意識啓発を行うことで、誰もが自分らしく活躍できる社会の形成を図る。

【主な取組みと成果】

1 伝統文化の保存と伝承

(1) 地域文化の継承

地域で受け継がれてきた文化や祭りなどを守り、未来へ引き継いでいくことができるよう、県の文化財保護指導員と連携し、地域文化の実態把握に努めるとともに、文化財の保存会等に対する支援を行った。

また、子どもの頃から地域文化に対する理解を深めるために、小学校の授業等において、地域文化に親しむ機会を増やすよう努めた。

[事業実施状況]

取組み	対象	内容
ふるさと学習	小学校5・6年生	杉沢の沢スギで現地学習
沢スギでの学習・ 清掃活動(年2回)	上青小1～4年生	杉沢の沢スギで現地学習
	上青小5・6年生	杉沢の沢スギの清掃活動

(2) 文化財や文化資源の保存と活用

杉沢の沢スギにおいては、地域や企業のボランティアの協力を得ながら、環境保全に努めるとともに、沢スギの魅力を町内外の人々に伝えるため、入善高校生による沢スギガイドツアー等、PR活動を実施した。

また、じょうべのま遺跡をはじめとする文化財等の環境整備を行うとともに、その活用や、啓発活動に努めた。

[事業実施状況]

・ 沢スギ清掃ボランティア活動

活動団体	実施日	参加者数
上青小文化財愛護少年団（地元住民含む）	6/15、10/4	延べ125人
婦人ボランティア連絡協議会	5/20、10/14	延べ37人
教友会（教職員OB）	5/17	27人
北陸電力グループ	10/22	26人
沢スギお助け隊	3/18 開催予定	—

・ 文化財等の啓発・PR活動

内 容	実施日	参加者数
入善高校生による沢スギガイドツアー	4/17	119人
ふるさと自然・歴史講座（再掲）5回	8/3～12/7	延べ82人
文化財防火デー防火訓練（文化資料館）	1/28	44人

・ 文化財関連保存・整備

内 容	事業費
杉沢の沢スギ芝地管理業務委託	1,973千円
杉沢の沢スギ草刈り等業務委託	335千円
杉沢の沢スギ台風11号による被害木伐採等作業委託	284千円
沢スギ自然館修繕	693千円
じょうべのま遺跡芝地管理等業務委託	1,861千円
じょうべのま遺跡休憩所修繕	13千円
小心庵解体工事	550千円
小心庵跡地・明治記念館周辺整備業務委託	15千円
米澤記念館修繕	18千円
小摺戸・浦山新カヤケ環境整備業務委託	203千円

2 芸術・文化の振興

(1) 芸術・文化施設の活用促進

入善町民会館や下山芸術の森アートスペース・発電所美術館など、施設の特色を活かした企画展示やイベントの開催など、町ならではの芸術・文化の発信に取り組むとともに、町民が芸術・文化に触れあう機会の創出を図った。

また、米澤記念館において、企画展を開催し、地域の歴史や文化への理解を促した。

[事業実施状況]

・町民会館による事業

(ア) コスモホール自主事業

事業内容	開催日	入場者数
■クラシックコンサート		
奥井紫麻・中瀬智哉ピアノリサイタル	5/7	400人
松田華音・牛田智大デュオリサイタル (2台ピアノ)	7/24	383人
小林愛実ピアノリサイタル	9/17	573人
トルヴェール・クワルテット with コスモホールフレンズ	10/15	258人
クアルテット・エクセルシオ演奏会 ピアノ：塚田尚吾	12/4	182人
■歌謡コンサート等		
50 th Anniversary 伊勢正三 LIVE2022	10/2	569人
宝くじまちの音楽会 岩崎宏 with 宗次郎	10/12	592人
■芸術鑑賞・伝統芸能公演等		
北日本民謡舞踊入善大会	4/24	280人
入善町中学校芸術鑑賞会 (イツフォーリーズ公演)	10/6	371人
入善名水寄席 柳家三三・春風亭一之輔公演	7/29	250人
入善名水寄席 桂宮治・柳家わさび公演	3/3	278人
■映画上映会		
「お終活」上映会 (昼・夜の部)	7/30	475人

■3月以降実施予定のもの
3/10 牛田智弘ピアノリサイタル (2台ピアノ公演とのシリーズ企画)
3/11 小曽根真クラシック×ジャズ (ゲスト：中瀬智哉、松井秀太郎)

(イ) 美術展企画展示事業

事業内容	開催日	入場者数
■出張美術館事業（各地区公民館との連携事業）		
小摺戸地区公民館（7/3開催）、入善公民館（11/19開催）、 上原公民館（中止）		
■第24回入善町書道小作品展	7/29	250人

(ウ) 芸術文化振興事業

事業内容	開催日	入場者数
■第50回入善町美術展 出品者86人	10/8～16	1,100人
■第50回入善町芸能発表会	11/3	500人

・発電所美術館による事業

企画展	会期	入場者数
アート・クリップ2022 町明日香「色彩浴」	4/23～5/29	632人
山上渡個展 セカイノセカイ ー風をあつめて、そらにはなつー	7/16～9/25	1,016人
アート・クリップ2022 勝見ふうたろー 夜のおよぎかた	10/22～12/4	584人
Nizayama Action Project Parallelscape	2/11～3/19	336人 (2月末現在)

・米澤記念館での事業

企画展	会期	入場者数
戦争とわたしたちの暮らし	5/12～9/20	—
私立米澤図書館と子どもの本	10/27～3/21	—

(2) 芸術・文化活動の振興

町民会館や下山芸術の森アートスペース・発電所美術館などを核とした文化・芸術活動を支援し、ウイズコロナの中でそれぞれの活動に応じた新型コロナウイルスガイドラインに示される感染防止対策を講じながら文化団体等の育成を図った。

3 国際交流と共生社会理解の推進

(1) 国際交流の推進

姉妹都市である宮城県登米市やアメリカ・フォレストグローブ市、異文化交流基金を活用したカンボジア王国との相互の派遣や受入れを通して、文化・教育・交流活動を計画していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、一部事業を変更、中止とした。

[事業実施状況]

交流先	方法	対象	令和4年度事業	実施時期
アメリカ フォレスト グローブ市	派遣	一般町民	中止	—
	表敬訪問	町長、議長 随員2名	実施 ※一般町民派遣の行程で 計画していた市制150周年 記念式典に参加	9/27 ～9/30
	派遣	中高生	中止	—
カンボジア 王国	派遣	団員9人 団長等3人	実施	12/18 ～12/23
	受入	中高生	中止	—
宮城県 登米市	派遣	小中学生	中止	—
	受入	小中学生	中止	—

(2) 男女共同参画の推進

「第6次にゆうぜん男女共同参画プラン」の策定に取り組むとともに、各地域の男女共同参画推進員や関係団体を中心となり、家庭・職場・地域社会との連携を深めながら啓発活動を展開した。また、生涯学習推進大会／男女共同参画フォーラムにおいて、男女共同参画の視点にたったロールプレイや講演会を実施することにより、男女共同参画に対する理解の促進を図った。

[事業実施状況]

- ・男女共同参画推進員定例会・研修会 12回開催（各地区推進員 20人）
- ・男女共同参画推進員地域別研修会（各地区で実施）8/21～12/17
- ・生涯学習推進大会／男女共同参画フォーラム 9/4（参加者 198人）
※推進員によるロールプレイの発表・家田 莊子氏による講演会
- ・男女共同参画推進友の会合同研修会 3/18 予定

【今後の方針】

- 1 文化遺産の保護について、国指定天然記念物「杉沢の沢スギ」と国指定史跡「じょうべのま遺跡」においては、国県の補助金を活用した整備事業を完了した。これらの文化財を町の大切な宝物として守り伝えていくため、引き続き維持管理を行い、環境保全を図っていく。
- 2 芸術・文化の振興については、文化振興財団と連携しながら、コスモホールを主体とした文化公演の実施や町収蔵美術品の出張美術館の開催、下山芸術の森発電所美術館の企画展開催など、良質な音楽や芸術等に触れる機会を提供し、町民が芸術文化を身近なものとして、またその魅力を最大限に感じることができるよう企画を実施する。
- 3 異文化理解と国内外交流事業については、新型コロナウイルス感染症対策を講じ、安全・安心に配慮しながら実施していく。また、今後は、派遣・受入れの他、オンラインを活用した交流方法も検討し、交流の広がりにつなげたい。
加えて、来年度は、町合併 70 周年を迎える節目の年であり、姉妹都市フォレストグローブ市や姉妹都市提携 20 周年を迎える登米市を町へ招待する予定である。この機会にさらなる交流を図るとともに、絆を深めるよう努めたい。
- 4 男女共同参画社会の実現に向けて、引き続きフォーラムの開催や推進員を核とした普及啓発活動を展開していく。また、令和 5 年度から第 6 次にゆうぜん男女共同参画プランがスタートすることから、プランに基づき、更なる活動を展開していく。

IV 学識経験者意見

- 地区体育大会への参加意欲が低下の一途をたどっており、それが地域活力衰退の一因にもなっていると思われる。現在、部活動の地域移行が課題となっているが、スポーツ少年団やクラブチームなど、地域に根付いたスポーツ団体と部活動を結びつけ、その活動の輪を広げる中で、各種スポーツ大会への参加意欲、ひいては地域活力の向上に繋がっていくのではないかと考える。
- 学校運営を円滑に行っていくための提案として、スタディメイトの確保に県立の特別支援学校を退職した知見のある教員を採用するほか、学校のICT環境の円滑な運用を図る観点から、システム変更などに伴う仕様の変更を発生させないような工夫を凝らすなどし、教職員の業務負担の軽減につなげていただきたい。また、冬季スクールバスの運行範囲について、保護者への説明を継続的に行うなどし、制度の周知を図ることが必要と考える。
- 小中学生を対象とした地域間交流や国際交流事業は、県内でも入善町が大変充実した内容で実施していると考えている。とりわけ、カンボジア王国への派遣については、現地の生活を肌で感じる大変有意義な事業と考えており、泉英明氏からの寄附を活用していると思うが、こうした体験を今後も継続して行ってほしい。
- 教育委員会では多くの特色ある事業を実施しているが、行事などの周知が行き届いていないように思われる。SNSなどのツールを有効に活用し、情報発信の方法を工夫しても良いのではないかと考える。
- 現在、多くの事業所において人員の不足が問題となっているが、とりわけ介護に関わる事業所での人材不足が深刻な状況となっている。小中学校において、介護を体験する機会を多く設けるなどし、介護福祉への理解を深める取り組みに力を入れてはどうかと考える。

[参考資料] 教育に関する事務の点検及び評価実施要綱

平成 21 年 2 月 26 日
入善町教育委員会議決

(趣旨)

第 1 条 この要綱は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号。以下「法」という。）第 26 条の規定に基づき、入善町教育委員会（以下「教育委員会」という。）が実施する教育に関する事務の点検及び評価（以下「点検及び評価」という。）について、必要な事項を定めるものとする。

(点検及び評価の実施)

第 2 条 点検及び評価は、その年度における教育委員会の運営状況及び事務事業の執行状況について行うものとする。

2 点検及び評価を行うに当たっては、法第 26 条第 2 項に定める学識経験を有する者（以下「学識経験者」という。）の知見の活用を図るものとする。

(学識経験者)

第 3 条 学識経験者は、入善町の教育に関して学識経験を有する者のうちから 3 人を教育委員会が委嘱する。

2 学識経験者の任期は 2 年とする。ただし、補欠の学識経験者の任期は、前任者の残任期間とする。

3 学識経験者は再任されることができる。

(報告書の作成等)

第 4 条 教育委員会は、点検及び評価の結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、入善町ホームページへの掲載、情報公開総合窓口への備付け等により公表するものとする。

(庶務)

第 5 条 点検及び評価の実施に関する庶務は、教育委員会事務局において行う。

附 則

1 この要綱は、平成 21 年 2 月 26 日から実施する。

2 平成 26 年 6 月 20 日一部改正。